

令和6年度“「長久手市役所の仕事」通知表”の作成（外部評価）①

令和6年8月20日 開催概要

開催概要	
開催日時	令和6年8月20日（火） 午前9時35分から午前10時25分まで
開催場所	市役所北庁舎2階 第5会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 石橋健一、岡崎信久、畑中達也、青山正秋、 近藤恵美子 <担当課> 建設部長 磯村和慶 みどりの推進課長 吉田 学 係長 作石裕介 <事務局> 総務部長 加藤英之、総務部次長 福岡隆也、 行政課長 山田美代子、課長補佐 水草 純、 庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	0人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備 考	

<外部評価実施者の質疑、意見等>

委員

この事業の活動や成果を測る指標を登録者数としているが、適切か。委託費、エリアごとの管理実績、市民の愛着など、そういった成果の変化や目標が票に書かれていると良い。

担当課

一番の目的は、市民の街路樹への愛着や美化意識の向上である。その結果、委託費の削減にもつながっていくと思う。

エリアごとに目標を設定することも今後検討していきたい。

委員

令和5年度は具体的な活動をしなかったと説明があったが、活動をしていな

い事業をどう評価するのか。

担当課

活動がない事情として、令和4年度に、登録者拡充のためグリーンロード沿いの店舗を回り、登録に向けた検討をお願いした。令和5年度はこれら店舗からの申請を待っていた。

委員

事業の実施において、一度空白の年度を作ると、再スタートに大きなエネルギーを要するため、継続してほしい。

企業への声かけを行ったとのことだが、個人の参加を増やすことも必要である。個人に広げるためには、匿名での参加を可とするなど、ルールの柔軟化を検討したり、SNSによる拡散を狙うなどし、親しみやすい制度にしてほしい。

担当課

市民らによる管理をしている旨を表す看板設置や、参加企業に関しては市HPに登録企業の情報を掲載してインセンティブを付与している。

制度の柔軟化については検討していきたい。

委員

行政評価はPDCAサイクルにおけるC（チェック）を担う部分であり、それにより改善等のA（アクション）につなげていくものである。行政評価票では成果があまり見えない中、今後の方向性は現状維持とあるが、それで良いのか。みんなが参加したくなるよう、管理地の看板を工夫するなど、市民を巻き込むアクションを検討すべき。

県道は県の管理であり、県道沿いを目標に設定することにも疑問がある。

担当課

成果指標は、登録人数が増えることで街路樹に愛着を持つ人数が増えると考え、登録人数を成果指標としているが、より適切な指標を検討していきたい。

また、多くの市民を巻き込めるよう、広げていきたい。

県道を設定した理由は、みどりの基本計画において、グリーンロードを緑の軸として緑化事業に取り組んでいくとしているためである。その他の路線も計画の対象であるため、登録を促していきたい。

委員

この事業はまだ始まったばかりであるため、今の段階では登録人数という成果指標でも問題ないと思う。

また、市民のみどりへの愛着を増進するという目的なら、対象を街路樹に限定せずとも、自宅前の植栽を育てる等でも良い。

担当課

植栽帯の中なら、花を自由に植えてもいいという制度としている。実際に1団体はそういった活動をしている。積極的に周知していきたい。

委員

最終成果に街路樹管理の質の向上とあるが、アダプト制度を用いて管理の質を向上させるのは難しいのではないか。

委員

街路樹通常管理とアダプト制度は分けて目標設定した方が良いのではないか。

担当課

街路樹維持管理は大きな管理費が必要となるため、将来的には削減していきながら、行政と市民と一体となって質を高めていきたいと考えている。

委員

削減が全てではなく、必要な管理費は使うべきと考える。

担当課

市は街路樹に力を入れているが、支出は抑制していかなければならない。市民に対し街路樹管理の質の向上について責任を課すことは難しいが、アダプト制度の普及により管理費削減につながり得ると考えるため、今後も推進していきたい。

委員

植栽を貸与することはできないのか。

担当課

貸与することは考えていない。現状のルールでも、植栽帯に花を植えたりしていただくことは可能である。

委員

企業は広告的な要素があるため参加者を増やすことは可能と考えるが、個人については、参加したくなるインセンティブの工夫が必要である。私は、個人が参加するインセンティブは、新たな人とのつながりが広がることだと思う。例えば、管理地に設置する看板に連絡先を記載し、アクセスしやすくするなど。

担当課

看板そのものを周知媒体とすることを検討していく。

委員

看板の文言を工夫し、「私にもできそう」と見た市民に思ってもらえるようにしては。

中間成果について、人数と活動量が大事だと思うので、資料6にある活動人数1, 116人の方が中間成果に相応しいのではないかな。

担当課

委員の意見を参考に指標を検討したい。

委員

子どもの頃に街路樹に関わった人が、大人になってからも街路樹に愛着を持っている。地域の子どもらが街路樹に愛着を持てるよう、アプローチしてほしい。

看板は良い周知の方法だと思うので、積極的にお願いしたい。

講評

・最終成果にある街路樹管理の質の向上について、これは剪定の技術的な問題があるので、本事業の最終成果としては記載すべきではない。事業フローを今一度チェックしてほしい。

・地域の子どもに街路樹に触れる機会を与えることが、愛着増進に有効である。

・成功事例を積み上げるためには、市内に波及させていくことが重要である。

企業は、CSRの面からある程度参加を見込むことができるが、個人は、人と人のつながり等のメリットをいかに作っていくかである。そのためには、例えば市ホームページ等で頻繁に個人の活動の様子を積極的に更新する等、攻めの姿勢で取り組んでほしい。